

伊丹市昆陽池町で発生したシンジュキノカワガ

安達 誠文¹⁾

はじめに

シンジュキノカワガとは中国原産の蛾であり、低気圧や前線などの自然現象で日本へやってくる、いわゆる「遇産蛾」である(宮田, 1986)。旧体系では、ヤガ科キノカワガ亜科に所属しているが(緒方, 1958)、新体系ではコブガ科シンジュガ亜科に所属している(神保, 2004-2008)。開張は80mm近くになる大型の蛾で、後翅は非常に美しい燈褐色、外縁は瑠璃色の斑紋が散りばめられた黒い帯に縁どられる。誰もが一度自分の手で取ってみたいと憧れる蛾である。筆者も、長年図鑑を見ながら憧れつづけてきた。

本種は自然現象で日本へやってきて、本来ならそこで死んでしまうはずの蛾だが、飛来地に食樹であるシンジュ(ニワウルシ)があることで2~3世代発生する。しかし、日本の冬の寒さには絶えられないので晩秋には全滅する。一度発生した場所で、その次の年に忽然と姿を消すという現象は、本種が日本の冬の寒さに耐えられなかったためである。

シンジュキノカワガとの出会い

2006年9月27日、筆者は兵庫県伊丹市昆陽池町にある伊丹市昆虫館のコンクリートの壁で繭を作る、黄色と黒の縞々模様の特徴的な幼虫を発見した。昆虫館の関係者の方にシンジュキノカワガの幼虫と教えてもらったのだが、最初はそのことが信じられなかった。

翌日の9月28日、筆者は虫カゴを数個持参し、シンジュキノカワガの幼虫を採取しに出かけた。伊丹市昆虫館に隣接する道路には、シンジュが街路樹として植えられており、そこが発生源だと知る(しかし、シンジュと非常に紛らわしいハゼ科も混じって植えられている)。それらのシンジュをよくよく見てみると、蛹になるために降りてきている幼虫や、一箇所にかたまった20個程の繭殻も発見できた。また、昆陽池公園内の1m~2mほどの幼木には、50頭ほどの幼虫がひしめき合っていた(写真1)。今でもその光景と興奮がよみがえってくる。すぐさま虫カゴはシンジュキノカワガの幼虫でいっぱいになり、素晴らしい一日となった。



写真1 シンジュの葉につくシンジュキノカワガの終齢幼虫
高さ1m程の幼木に50頭程が群れていた。葉はほとんど食い尽くされ、茎だけになっていた。2006年9月28日、伊丹市昆陽池公園にて。安達誠文撮影。



写真2 羽化したシンジュキノカワガ
屋外で羽化した個体を部屋の中へ入れたが、目を離した隙に行方不明になった。数分後、壁に止まっているの発見した。2006年10月18日、西宮市の自宅室内にて。安達誠文撮影

持ち帰った幼虫は、ほとんどが終齢幼虫であり、その日のうちに蛹になる個体もあった。幼虫は、蛹になるところの材料をかじって繭を作る。本来はシンジュの樹皮を材料に繭を作るので、蛹は幹と同化して非常に見つけ難い。蛹の土台には、生け花用のスポンジを使用した。蛹は屋外で管理し、同年10月18日~10月26日の間に32頭もの美しいシンジュキノカワガが羽化してくれた(写真2)。

2006年は異様な暖冬だったので、もしかしたら越冬

¹⁾ Masafumi ADACHI

したかもしれないと思い、翌年の2007年6月に同じ場所へ行って見たのだが幼虫は発見できなかった。しかし半年後の11月20日、シンジュキノカワガの幼虫を夏にたくさん見たという情報を、「いたこんクラブ」の方から連絡いただいた。翌日の11月21日に現場へ行ってみるとシンジュは落葉し、幼虫など見る影も無かった。しかし、なんと昆虫館の壁で繭を作る幼虫を6頭、今にも落ちそうなシンジュの葉につく幼虫を2頭発見することができた。2頭の幼虫を持ち帰ったのだが、1頭は蛹化途中で死亡し、もう1頭は蛹になったが乾燥のため死亡した。

2008年6月に一回現地へ出向いたが、確認できなかった。2009年は現地には出向いていないが、2008年、2009年は確認できなかったという情報をいただいた。(川崎, 私通)

温室が越冬を可能にした?

本種は日本では越冬できないと言われていたが(宮田, 1986), 兵庫県の伊丹市で少なくとも2年連続発生が確認できた。あまり詳しくは聞いていないが、伊丹市昆虫館の方からは2005年くらいから毎年見られるという話を聞いた。九州地方では、毎年発生が確認されているようだが、正確な越冬の確認はされていない(宮田, 2006)。兵庫県の伊丹市のような内陸部で連続して発生したということは、たまたま毎年シンジュキノカワガが飛来し、子孫を残したということも考えられるが、なんらかの形で越冬した可能性も考えられる。

伊丹市昆虫館には、沖縄の蝶を通年放し飼いにしている温室がある。温室は下部を網戸越しに開けて換気を行っている。もしかしたら、この温室に隣接した壁で繭を作れた蛹が温室の暖かい空気を受けて、越冬できたかもしれないと考えている。実際、温室に隣接したコンクリートの壁で繭を作る個体、繭殻も発見した。繭殻については、いつ頃羽化したものかはわからない。

自宅から20分近くのところなので、これからは定期的に通い、発生状況や越冬個体を確認できたらいいと思っている。(今年も発生するかどうかかわからないが・・・)

こんな身近なところでシンジュキノカワガが発生してくれるなんて、天にも昇るような気持ちである。

参考文献

- 神保宇嗣, 2004-2008. 日本産蛾類総目録. <http://listmj.mothprog.com>
- 宮田彬, 2006. 九重昆虫記, かんぼうサービス
- 宮田彬, 1986. 日本の昆虫4 シンジュキノカワガ, 文一総合出版
- 緒方正美, 1958. 原色日本蛾類図鑑(下), 保育社